

群馬選挙区から候補者擁立を!

連合群馬と民主党細野幹事長との意見交換

3月20日に連合群馬四役と参院選比例区擁立産別の代表者が出席し、民主党の細野幹事長との意見交換を行いました。

北川会長からは「勤労者の目線で温かみのある政策が実現できるのは民主党しかない。党として堂々と真を通して突き進んでほしい」と冒頭でふれました。産別代表者からは、「産業政策を実現させるため、参院選での候補者当選に向け、9産別それぞれが必死に取り組んでいる」などを伝え、群馬選挙区から候補者を擁立する必要性を連合群馬総体で強く訴えました。そして、細野幹事長は「働く仲間を代弁するのは民主党しかない。連合のみなさんの思いを受け止め、選挙区から早く擁立したい」と話しました。



産別代表者の意見に耳を傾ける細野幹事長

連合が民主党を支援する理由

労働組合は、労働者の生活環境の改善のために取り組んでいるが、そのためには職場のみにとどまらず、法律や様々な社会の制度を変える必要がある。

したがって、連合が政策課題の取り組みを進める上では、政治との関わりが不可欠である。理念・姿勢が一致し、政策面での方向性や基本部分でも連合と最も近いのが民主党である。このため、連合と政治との関わりにおいては民主党との連携が欠かせません。

細野幹事長 共に生きる社会を目指す 講演会



熱弁を振るう細野幹事長

夏の参議院選挙での巻き返しに向けた細野幹事長による講演会が、3月20日に開催され、連合群馬から262名が出席しました。

細野幹事長は、綱領の説明の中で、民主党は供給者（経営側）の立場に立つのではなく、「生活者・納税者・消費者・働く者」として受け止める立場で政策を考えている事と「改革者」の立場により、共に生きる社会「共生社会」を目指していく政党であること。また、理解を深めるために民主党の実行してきた現政権政党との違いを例にあげて説明しました。

労組と協同組合が連携し、運動を社会的に広めていくために

2月20日、県公社総合ビルでぐんま労福協主催によるライフアップセミナーが開催され、労働者福祉事業団体・各級議員・連合群馬など293名が参加しました。

基調講演を行った中央労福協前事務局長の高橋均氏は「ろうきんや全労済は、労働組合の自主福祉活動の中から作られた協同組合であり、業者とお客様ではなく、ともに労働運動・自主福祉活動を進めていくパートナーにならなければならない」と話しました。

第2部のパネルディスカッションには、北川会長が労働組合の代表として参加し、「組合員の皆さんには、組合活動に参加してもらい、組合のこと



組合活動への参加を！
(連合群馬北川会長)

や社会貢献活動などの取り組みを肌で感じて知ってもらいたい。その中で、組合員に対する福祉活動の一環として福祉事業団体と協同した活動をしていきたい」と思いを語りました。



中央労福協
高橋前事務局長

嶺公園で清掃活動を実施

環境保全や組織を超えた交流のための森林整備ボランティアを、4月6日に前橋市の嶺公園で実施し、産別・地協から76名が参加しました。

参加者は、側溝いっぱいにとまった落ち葉を掻き出したり、秋の作業で切り払った木々の枝を小さく切って束ねたり、篠を刈ったりとそれぞれに協力しながら作業にあたりました。

1時間半で90ℓのゴミ袋（家庭用ゴミ袋の倍の容量）50袋分の落ち葉等を集め、見違えるほどにきれいになりました。

秋には夏に成長した笹や下草を刈る作業を予定していますので、次回もご協力をお願いします。



側溝にたまった
落ち葉を掻き出す



集めた落ち葉の前に